



ローカルSDGs 環境で地域を元気にする “地域循環共生圏”

令和4年2月
環境省 大臣官房 環境計画課



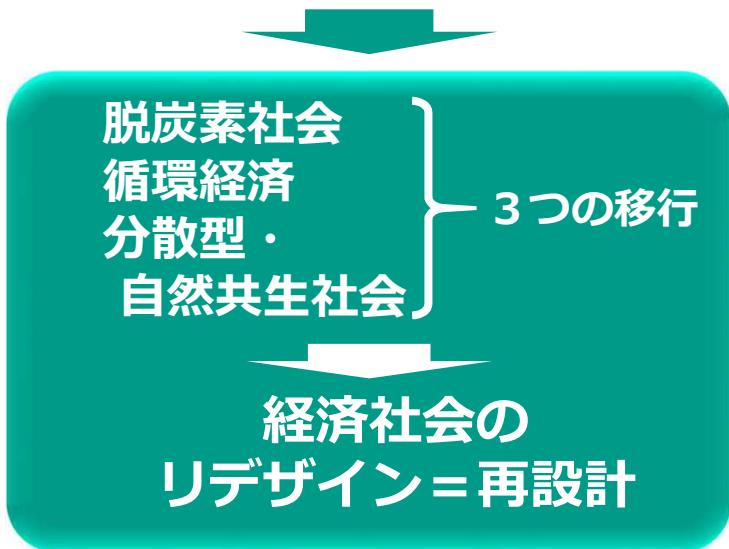
地域循環共生圏 = ローカルSDGs

地域の活力が最大限に発揮されることを目指す

- 地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
- 地域の特性に応じて補完し、**支え合う** 第五次環境基本計画（閣議決定）

自分たちの足元にある地域資源を活用し、環境・経済・社会を良くしていくビジネスや事業といった形で社会の仕組みに組み込むとともに、例えば都市と農村のように地域の個性を活かして地域同士で支え合うネットワークを形成していくという、「自立・分散型社会」を示す考え方（令和3年度 環境白書）

- ✓環境・経済・社会の統合的向上
- ✓あらゆる観点からイノベーションを創出
- ✓幅広いパートナーシップを充実・強化



地域の活性化・持続可能な地域

事業と人々が持続可能な地域を作る

- ・モノ
- ・エネルギー
- ・生態系サービス
など

地産地消
(特にエネルギー・食)

資源・お金
人々の想いの**循環**

自立した**地域**

〔地域活性化・サステナブル+課題解決能力〕

地域を支える仕組み



エコ・ソーシャルな
SDGs事業

SDGsビジネス

公益事業

CSR・CSV

ボランティア

様々な事業を
生み出し続ける
人々のネットワーク



地域プラットフォーム

脱炭素社会

地下資源から
地上資源の活用へ

自然との**共生**

森・里・川・海が育む自然の恵みを守り活かす

サーキュラーエコノミー
循環経済

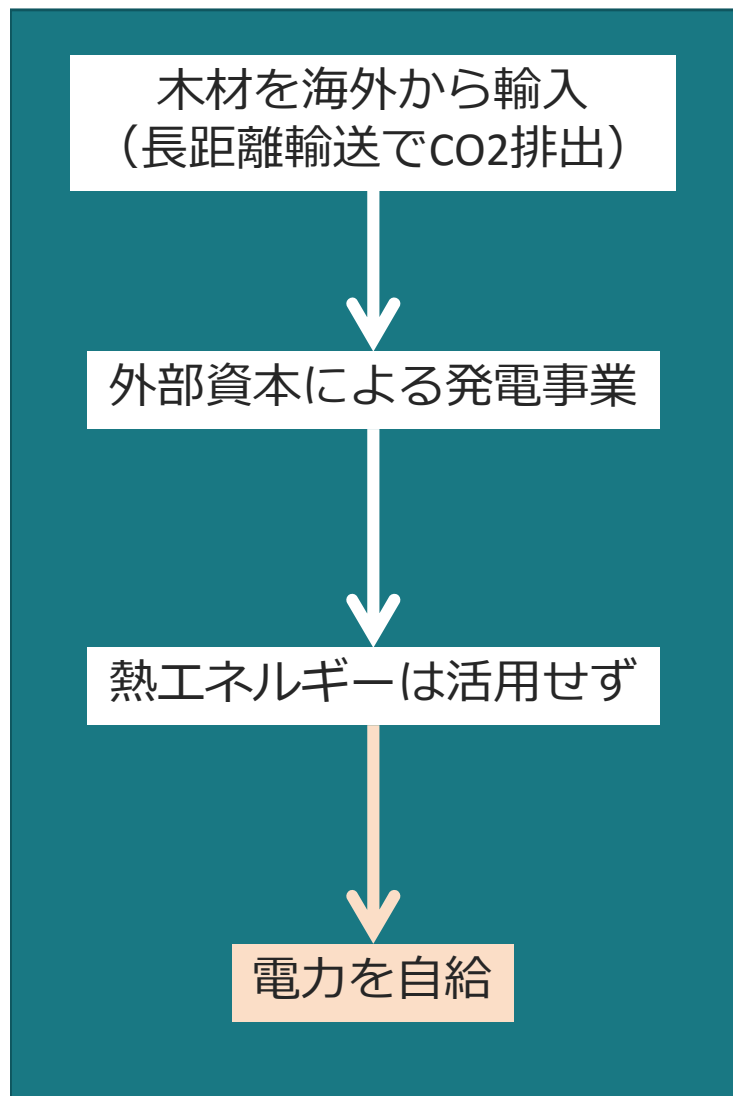
そもそもゴミを
出さない社会へ

自立した持続可能な地域 その集合体が地域循環共生圏

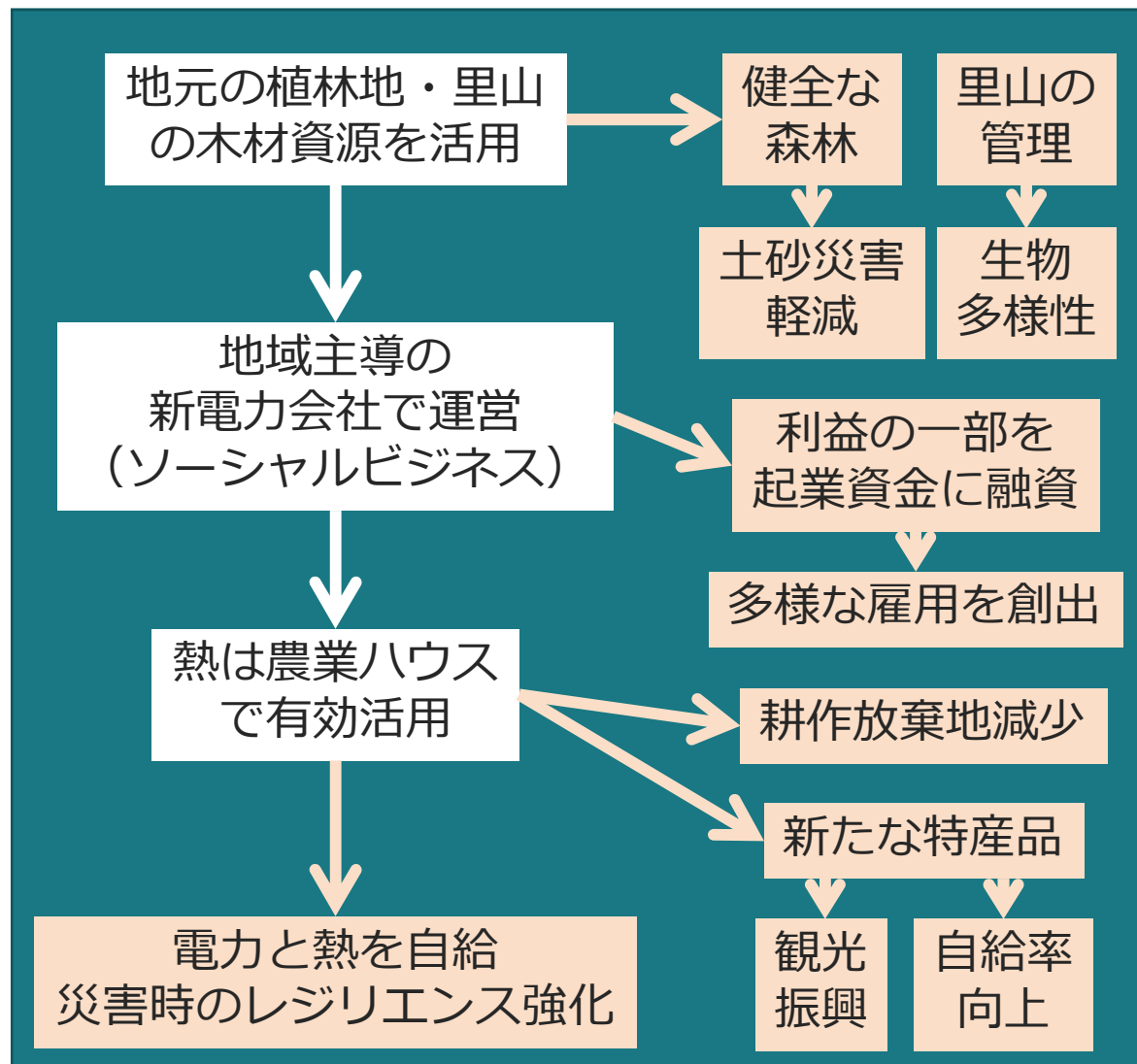


地域循環共生圏の特徴 木質バイオマスによる再生可能エネルギーを例に

【従来の視点】



【地域循環共生圏の視点】

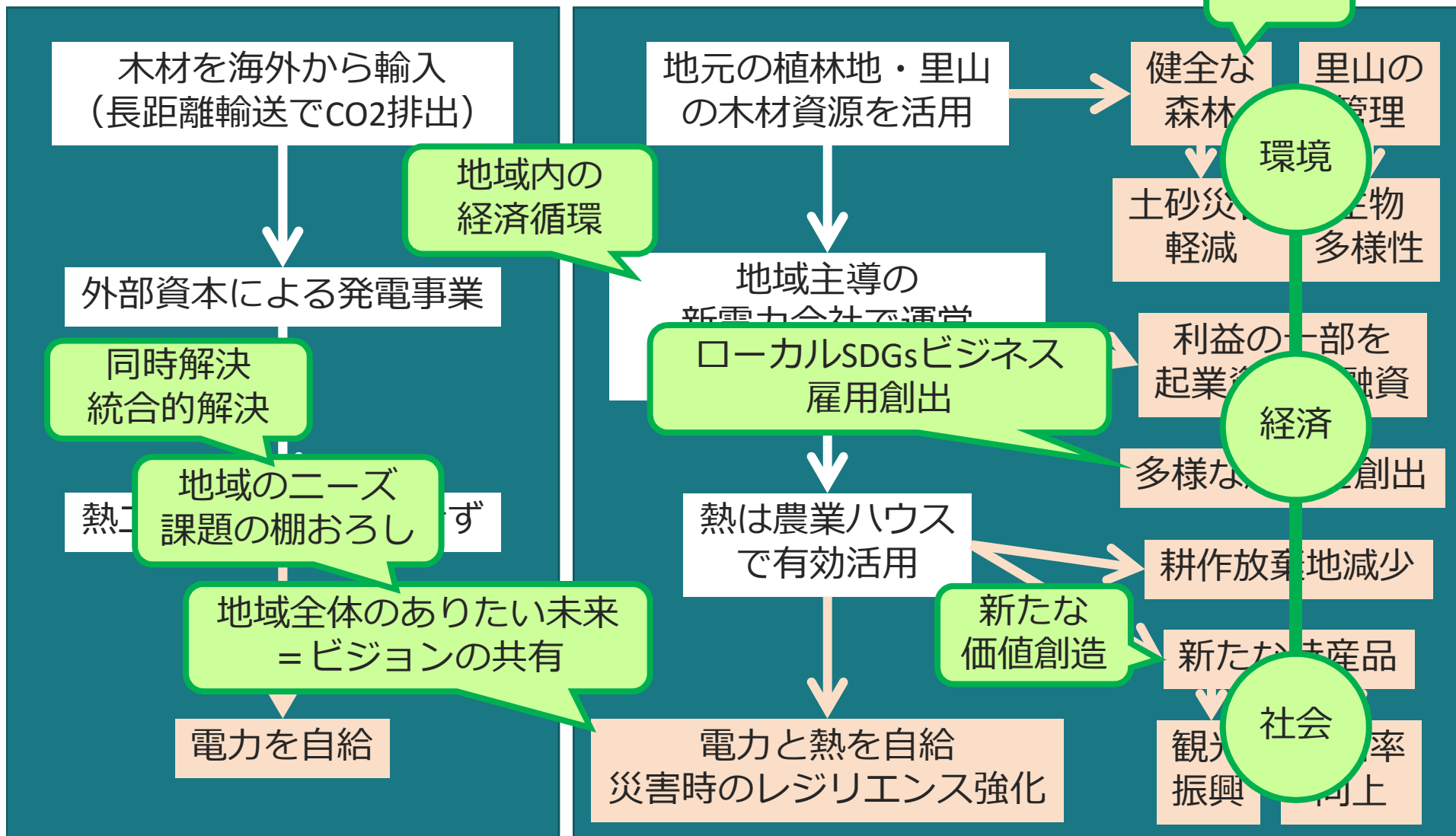


地域循環共生圏の特徴 木質バイオマスによる再生可能エネルギーを例に

【従来の視点】

【地域循環共生圏の視点】

協働



真庭市における地域循環共生圏を構成する事業の例



木質バイオマス発電

- ・針葉樹の未利用間伐材、端材を活用
- ・発電量：約74,000MWh
- ・未利用や産廃処理されていたものを活用し、雇用約50名を創出



真庭里海米（森里川海のつながり）

- ・瀬戸内海で廃棄物として処理に困っている牡蠣殻を土壌改良材として活用
- ・資源の循環利用×安全安心の米作り
- ・給食で里海米を活用。学校でSDGsを学ぶ素材として活用



広葉樹林の発電への活用

- ・真庭市の森林の4割が広葉樹林
- ・放置された広葉樹林を木質バイオマス発電で活用
- ・里山の持続的活用



ジビエカーによる獣害対策

- ・兵庫県側からのシカの流入が増加
- ・移動式解体車により、食肉としての活用を促進



草原の再生と国立公園観光

- ・草原維持の山焼きを復活し、景観保全
- ・山焼き自体をエコツーリズムとして実施
- ・草原の維持による希少種の保全（サクラソウ、フサヒゲルリカミキリ等）
- ・ススキをかやぶき屋根の材料として出荷し、農家の副収入に



生ごみ等のバイオ液肥

- ・生ごみ、し尿浄化槽汚泥から、バイオガス発電と液肥生産
- ・市役所等で無料配布

環境をよくする
事業を数多く創出

- ✓ 地域でのSDGsの実践
- ✓ 雇用創出
- ✓ 地域内経済循環の強化

持続可能な地域
自立分散型社会

サステナブルブランド GREENable (グリーンナブル)

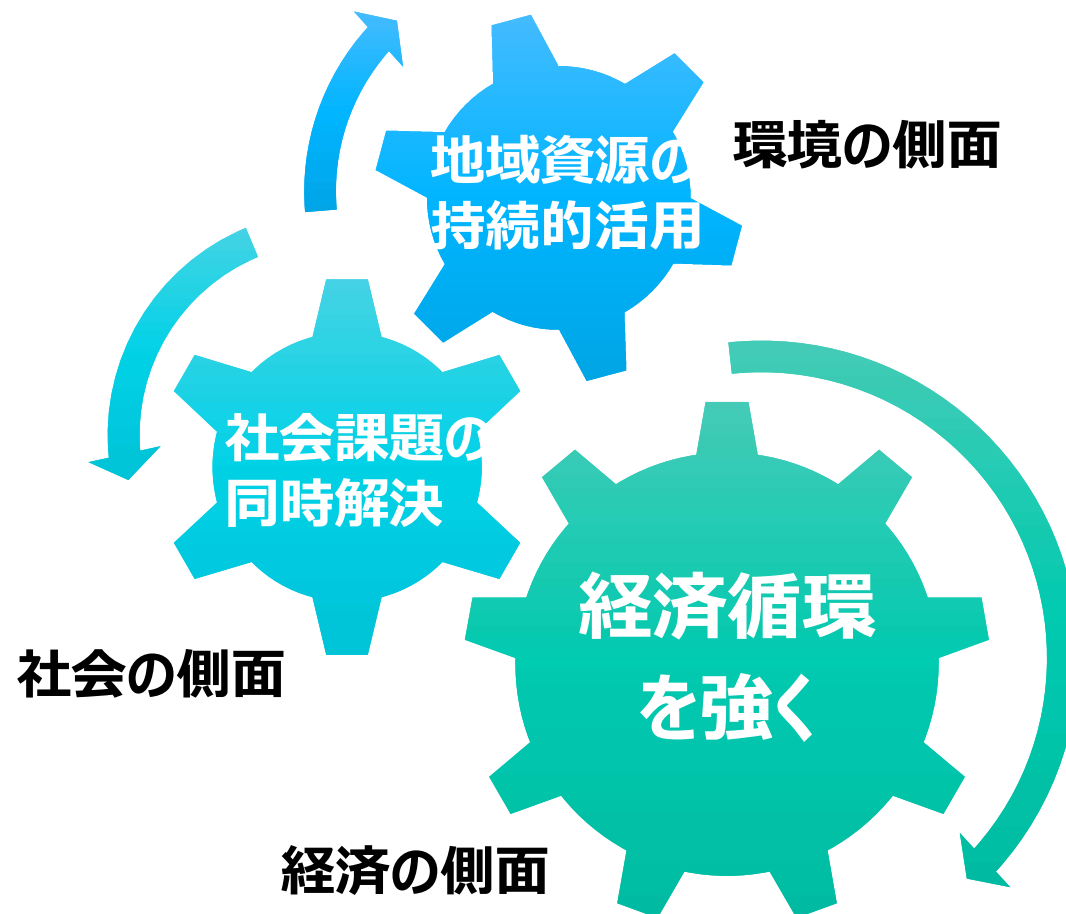


株式会社 阪急阪神百貨店



どうやって地域を元気にする？

カギを握るのは、ローカルSDGs事業 を地域でたくさん生み出すこと



環境・経済・社会を
統合的に良くする
事業・ビジネス

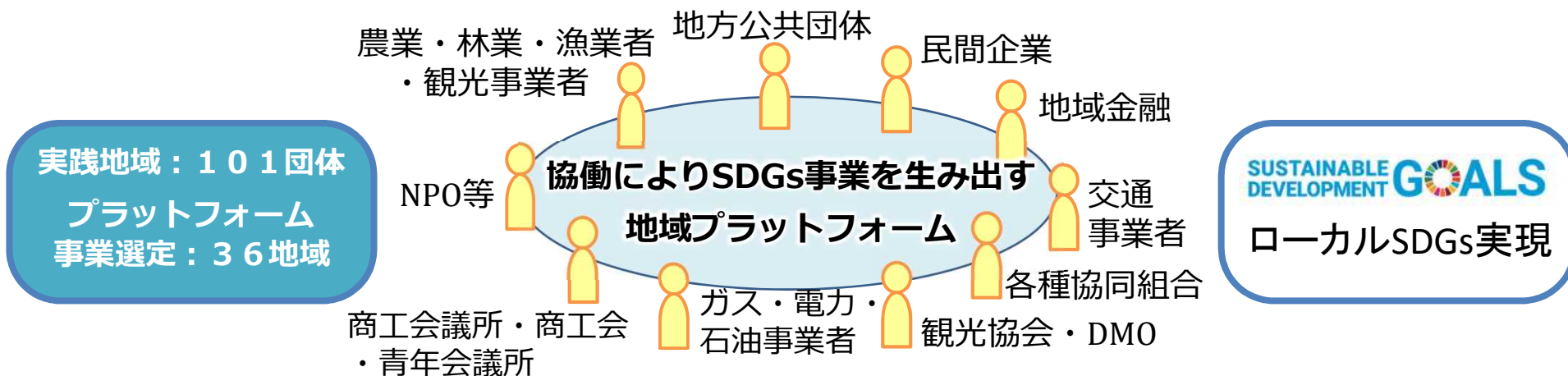
= ローカルSDGs事業



たくさんのローカルSDGs
事業により、地域づくりを
持続的に行っている地域

= 地域循環共生圏

地域プラットフォームと、それを応援する全国プラットフォーム



実践地域：101団体
プラットフォーム
事業選定：36地域

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
ローカルSDGs実現

環境省ローカルSDGs－ 地域循環共生圏づくりプラットフォーム

運営支援

- モデル事業の実施（地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業）
- グリーンファンド

学びと出会いの場

- 多彩な先進地域、講師・企業によるセミナー
- 地域を元気にする事業創出のスキルアップ
- 地域内外での協働の輪を広げるコツを学ぶ

情報提供

- 先進事例・優良事例
- 関係省庁の支援事業の紹介
- メルマガ、Facebook
- 地域づくり支援等の他のネットワーク

オープンイノベーション

- 地域同士、地域と一緒に取組みたい企業、地域おこし等の専門家との出会いによるオープンイノベーションの場：フォーラム

登録企業：141

伴走支援

地方環境事務所

環境パートナーシップオフィス
(全国8カ所)

ESG加速化

- 金融機関を対象としたセミナー、事例集、実践ガイド作成
- 地域での財務局・金融機関との連携強化

環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏づくりプラットフォーム

共生圏づくり
の手引き

モデル地域
の取組み

地域を応援
したい企業と
の出会い

先進事例



共生圏づくりを
進める地域の
紹介

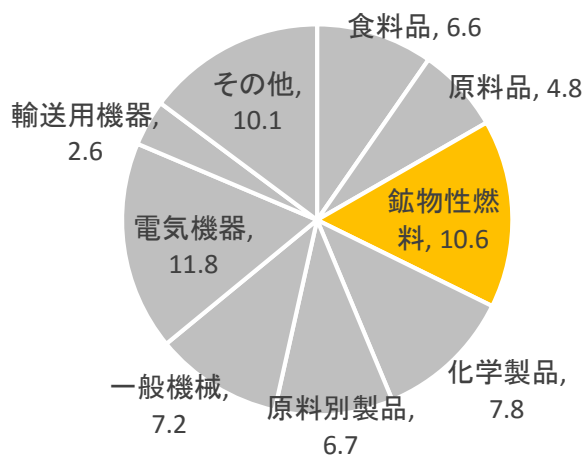
セミナーやフォーラム、シンポジウムなど、
学びの機会、仲間作りの場のご案内



フェイスブック



地域に利する再生可能エネルギー事業



貿易統計 主要商品別輸入 (2020年分、兆円)

再生可能エネルギーを導入

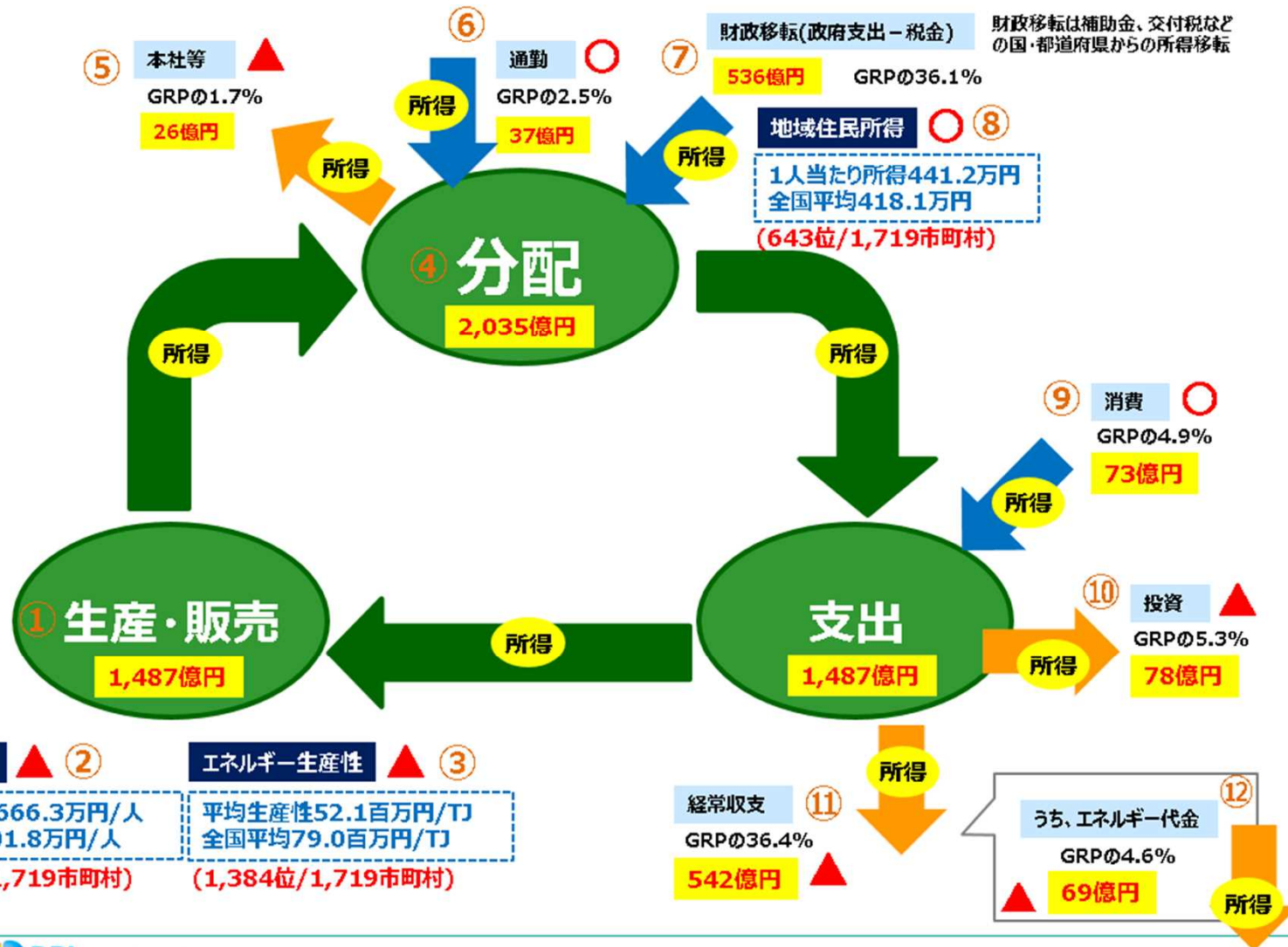
電力を地域外に販売するだけでは、
地域に利する形にならない場合も…

地域に利する再エネ事業のポイント

- ① 地域の雇用・資本
- ② 利益の社会的投資
- ③ 熱等の副産物、地域内未利用資源の活用
- ④ 地域事業者による施設整備・維持管理
- ⑤ 再エネの地産地消

地域の課題解決 (同時解決)、
地域経済の活性化、
エネルギーの自給 (安全保障) の実現

真庭市の所得循環構造 2015年 (地域経済循環分析)



脱炭素の取組が地域の所得向上に結びついた例



水俣市 地域内総生産が、725億円（2010年）から811億円（2018年）に増加。

化学: -4億円

電気機械: +35億円

その他製造業: +21億円

電気業: +7億円

宿泊・飲食・小売:
+8億円

- かつて税収の半分を依存していた化学産業のシェアが縮小し、現在では総生産に占めるシェアは10%以下に低下
- 全国的な太陽光発電施設の増加に伴い、受電盤、分電盤、制御盤を製造する市内の電気機械産業の付加価値が増加
- 木材・木製品製造業の出荷額が1.7倍（国産材を原料とする合板工場の業績が大幅に向上）
- 地元企業（上記化学産業や中小企業を含む。）が参画する太陽光発電事業により、電気業の付加価値が、約7億円増加
- 公共交通を活用した低炭素観光等の推進によって、市内温泉地等の観光客が増加（取組の詳細は平成27年版環境白書参照）

真庭市 地域内総生産が、1,337億円（2010年）から1,501億円（2018年）に増加。

電気業: +14億円

運輸: +55億円

その他製造業: +39億円

数字は付加価値ベース

- 地元企業のバイオマス発電や太陽光発電によって、付加価値額が大幅に向上
- バイオマス発電関連の輸送が拡大した可能性。（観光客は減少傾向）
- 木質ペレットを製造する地元企業の売上高が大幅に拡大

バイオマス
発電のサブ
ライチェーン

地域経済循環分析 (自動分析ツール)



検索

解説動画も
あります！

流出の落とし穴を低減する3つの対策

地域の外から
購入していた
モノやエネルギーを
地域内で購入

地域内の
人材の雇用

地域の資金
(資本)の
活用



地域を強くする 地域循環共生圏

消費 ▲
GRPの4.3%
7,163億円

10 投資 ▲
GRPの2.1%
3,510億円

12 エネルギー代金
GRPの4.3%
7,261億円

所得

労働生産

平均生産
全国平均

(309位/1,719市町村)

(591位/1,719市町村)

19,285億円

世界のSDGs達成も私たちの地域から、暮らしから



地域循環共生圏

= 地域のSDGs

: SDGsを地域で実践するための**ビジョン**



グッドライフアワード 森里川海プロジェクト

= 暮らしのSDGs

: 一人一人、一社一社がSDGsを取り入れる**アクション**



グッドライフアワード

- 「環境と社会によい暮らし」に関わる活動や取組を**大臣表彰**することで、**活動を応援**するとともに、優れた取組を発信
- 「みんなの力で社会は変わる！！」との理念の下、**草の根の国民参加型**の事業として実施
- 国内の企業・学校・NPO・自治体・地域・個人を対象に公募



エコでソーシャルな活動（例）

<p>都市と農村のエコな交流 (自然保全) (環境×地域振興)</p> 	<p>里地里山整備による復興 (自然保全) (環境×復興)</p> 
<p>住宅・交通シェアリング (省資源) (環境×コミュニティ)</p> 	<p>地産地消サービス (省エネ・自然保全) (環境×農業)</p> 



Fairy forest ～もったいないに架け橋を～ ＜山崎佐知子＞

- ✓ 食品ロスを減らし、持続可能な社会を実現させたいという思いから一人の高校生が立ち上げたFairy forest ～もったいないに架け橋を～
- ✓ 産業廃棄物の「おから」に注目し、雪花菜のグラノーラを開発。お豆腐屋さんの在来種のおからと有機オートミール、国産米粉のみで作る。販売からの収益は子ども食堂へ寄付をする



こんにちは。高校二年生の山崎佐知子です

幼い頃からの食品ロスを減らしたいという思いとサステイナブルな取り組みを行っている磯沼ミルクファームでのカウガールでの経験から、私にも何か出来ることはないかと思い、食品ロスを減らすための取り組みとしてFairy forest ～もったいないに架け橋を～を立ち上げました。

第9回グッドライフアワード 環境大臣賞 個人部門

<https://www.goodlifeaward.jp/?glaentry=glaentry-6778>

傘のシェアリングサービス「アイカサ」 ＜株式会社Nature Innovation Group＞

- ✓ 日本初の本格的な傘のシェアリングサービス。突発的な雨にもビニール傘をその都度購入せずに、アイカサをレンタルし、雨が止んだら最寄りの傘スポットに傘を返却
- ✓ スポット数約850箇所。累計登録ユーザー数は約20万人。傘をシェアし使い捨て傘ゼロを実現する社会づくりをミッションに



雨の日を快適にハッピーに

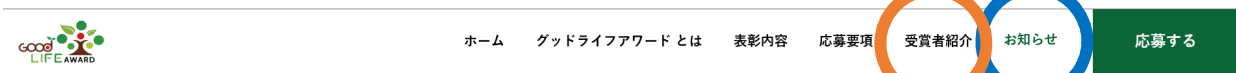
日本一乗降客数の多いJR山手線各駅にアイカサスポット設置を始め、京王線、西武線、小田急線など人々のインフラになるような場所に多数設置。

今後は首都圏の鉄道各駅を始め、自動販売機のように当たり前存在し、誰もが傘は必要な時にレンタルし、使い捨て傘ゼロの社会を目指します。



グッドライフアワードはSDGs事業の見本市

受賞者紹介 お知らせ



お知らせ

イベントでの
プレゼンテーションを
アーカイブ動画配信
→ 受賞後の
取り組みの発展

『福島ひまわり里親プロジェクト』は、東日本大震災からの復興のシンボルとしてひまわりを育て、福島県に、そして日本全国に防災のネットワークを広げようとする取組です。2011年5月にスタートした取組は、すでに10万人以上が里親として参加し、5トン以上のひまわりの種が福島に集まりました。

活動のきっかけは？
.....

東日本大震災で仕事が減った福祉作業所への仕事として

第3回グッドライフアワードで環境大臣賞グッドライフ特別賞を受賞した『福島ひまわり里親プロジェクト』。取組を行っている特定非営利活動法人チームふくしまは、福島県内の若手企業経営者などが集まる団体です。2011年3月に発生した東日本大震災では、原子力発電所の事故もあり福島に大きな被害をもたらしました。



2021.12.10
グッドライフアワード表彰レポート
を振り返ります。

2021.12.5
第8回グッドライフアワード受賞者発表
詳しくはこちらから。

2020.09.18
グッドライフアワード歴代7年の受賞者が集結。注目「14取組」が最
新動向を発表しました。

受賞取り組みを取材
→ 記事にして、
取り組みのポイントを紹介

株式会社みんなの奥永源寺 東近江ムラサキ紫織（しえん）プロジェクト	NPO法人 上田市民エネルギー 誰でも参加できる自然エネルギー「相乗りくん」	株式会社東京チェーンズ 東京で林業に生きる!	NPO法人 LOOB JAPAN ジュースパックのゴミがポップな商品に
新潟ラベンダー物語 新潟ラベンダー物語～耕作放棄地の可能性・無農薬ラベンダー栽培から生まれる元気な未来～	アニマルパスウェイ研究会 森と命を繋ぐ歩道橋「アニマルパスウェイ」の開発と普及	NPO法人 土佐山アカデミー 土佐山アカデミー	NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク JP子どもの森づくり運動『東北復興グリーンウェイ』